

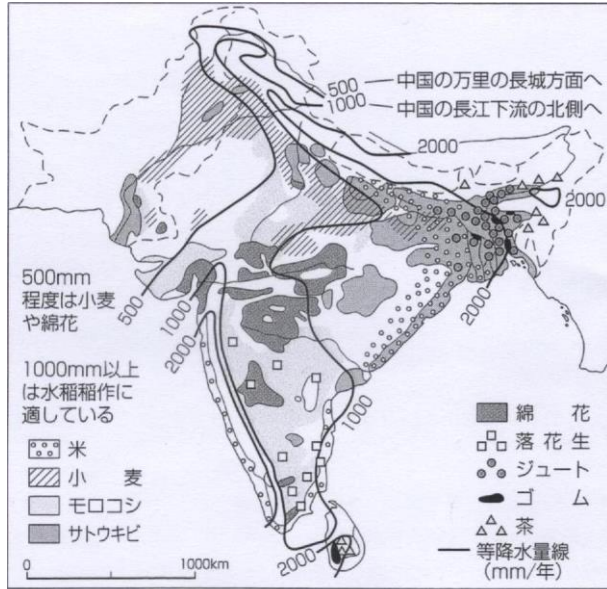
# 地誌 第10回「南アジア地誌② - インドの農業・工業 - 」

○今回のポイント

経済発展するインドだが、農村と都市、富裕層と貧困層、近代化と伝統文化で様々な格差が見られる！

成長する経済

多様な自然環境と農業 (教科書 p.175)



▲南アジアの農作物栽培地域(降水量に注意)

## ■ [① 緑の革命]

発展途上国の食糧問題を解決するため、米、小麦、トウモロコシなど穀物の高収量品種の導入をすすめる技術革新のこと。高収量品種を栽培するためには多量の水や化学肥料が必要となるため導入できる地域や農民は限られ、地域間や農民間での貧富の差が拡大するという問題も生じた。

## ■ 土壌(間帯土壌と成帯土壌)

○インドはデカン高原に[② レグール]と呼ばれる間帯土壌が広がり、綿花栽培が盛んである。間帯土壌は母岩に影響される土壌で、地中海沿岸に分布するテラロッサ、ブラジル高原に分布するテラローシャがある。  
○成帯土壌は気候や植生の影響を受けて生成された土壌。熱帯の赤いラトソルや冷帯の白いポドソルなど。

○農業就業人口

- ・国民の5割以上が農業に携わる。
- ・英領植民地時代から[③ 大地所有制]が続き、土地を持たない農民(小作農)が多くいる。

○稲作地域

- ・夏の海洋からの南西季節風の影響で多雨となるインド[④ 南西部]、ガンジス川[⑤ 中下]流域
- ・南西部には西ガーツ山脈が走る→南西季節風を遮るので風上は降水量が多くなる

○ジュート

- ・ガンジス川河口部の[⑥ デルタ](三角州)地帯で栽培。
- ・ジュートとは黄麻。インドとバングラデシュの2か国で世界の生産量の大部分を占める。

○茶

- ・ヒマラヤ山脈南側の[⑦ ダージリン]
  - ・インド東部の[⑧ アッサム]地方
- ☆茶は高温多湿で水はけのよい傾斜地を好む☆  
→ヒマラヤ山麓、丘陵が広がるアッサム地方

○畑作

- ・夏の南西季節風の影響が及びにくく、降水量が少ない地域
- ・ガンジス川上流地域、北西部のパンジャブ地方、内陸部のデカン高原

☆小麦☆

- ・ガンジス川上流部から北西部の[⑨ パンジャブ]地方・・・灌漑により小麦栽培

☆綿花☆

- ・インド内陸部の[⑩ デカン高原]→玄武岩が風化して生成された黒色の肥沃な間帯土壌「レグール」

※ガンジス川流域は上・中下・河口流域で農産物が異なるので要注意！

上流(小麦) → 中下流(稲作) → 河口部デルタ(ジュート)



☆インドの主要工業都市まとめ☆

○[11] ムンバイ ]

- ・西部。デカン高原の綿花を利用した綿工業。
- ・機械工業、化学工業など商工業の中心。

○[12] コルカタ ]

- ・東部。ガンジスデルタで栽培されるジュートを  
利用したジュート工業の発展

○[13] デリー ]

- ・自動車工業、ダイヤモンド加工業
- ・ダイヤモンドはインドの重要輸出品

○[14] ジャムシェドプル ]&アサンソル

- ・鉄鋼業
- ・インド最大の重化学工業地域

### 成長するインドの工業 (教科書 p.176)

○独立後インドの工業化政策

- ・植民地時代の民族運動 → 「国産品愛用」 → 独立達成 → あらゆる種類の製品を国内生産する体制

↓

- ・国営企業 → 効率性悪く質の劣化 → 国際競争力の低下

○経済自由化へ

- ・1980年代経済統制緩和 → 1991年[15] 新経済政策 ]による経済自由化、輸入や外国資本制限撤廃

↓

- ・インドの国内市場と安価な労働力 → 工業生産は急速な成長

※自動車産業の発展 → デリー、[16] バンガロール ]、[17] チェンナイ ]

※[18] BRICs ]の一国として世界の注目を集める。

### 急成長するIT産業 (教科書 p.177)

○IT産業の発展

- ・1991年経済自由化 → コンピュータソフトウェアの発展( 数学教育・英語使用 )

- ・かつては人材流出していたが、現在はインド国内での生産が主流になった！！

※通信衛星の使用により、インフラ整備(道路・鉄道など)をしなくともよい

※[19] 時差の利用 ]により、欧米が夜の間仕事を引き継げるので迅速さで有利

※英語使用による[20] コールセンター業務 ]やデータ処理業務

- ・デリー、バンガロール([21] インドのシリコンヴァレー ])にハイテク工業団地。

### インドのめざす方向 (教科書 p.178～)

○高い経済成長率、IT・ソフト産業分野の成長(100%外資導入・人材育成)

○独自の伝統や文化が人々の生活の基盤 → 近代化する社会とどのように融合するか! ?

※インドではカースト制度が職業を拘束するので、IT という分野はソフトウェアで這い上がるための手段であり、特別の意味を持つ。都市にはサイバーカフェがあり、若者はそこで技術を磨く。「貧しいが頭と時間を有効に」が合言葉。